

委員会視察成果報告書

令和8年1月25日

犬山市議会議長

議員名 沼靖子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和8年1月19日(月)
(2) 視 察 地	愛知県扶桑町
(3) 視察の種類	総務委員会
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙のとおり
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別紙のとおり



扶桑町「チョイソコふそう」視察報告書（令和８年１月１９日）

① 視察の成果

・扶桑町では、デマンド型交通「チョイソコふそう」を、２年間の実証実験を経て令和６年１０月から本格運行している。市・アイシン・運行事業者による三者協定により、制度設計、システム提供、実運行の役割分担が明確に整理されている。

・本事業は定時定路線ではなく、会員登録制・事前予約による乗合型であり、停留所は公共施設に加え、住宅地や資源ごみ集積所など生活動線を意識して設置されている。予約は電話によるオペレーター対応をし、約２割はインターネット予約であり、高齢者のデジタル利用も進んでいる。

・利用実績としては、１日あたりの平均利用者数は約５７人で、設定された利用目標を安定して上回っている。主な利用目的は医療機関、商業施設、公共施設であり、日常生活の移動手段として定着していることが確認できた。一方で、利用が増加する中で予約不成立やキャンセルの発生といった課題もある。

② 犬山市への提言

・扶桑町の事例から、デマンド型交通は単なる「移動弱者対策」ではなく、外出のきっかけづくりや生活の質（ＱＯＬ）向上を目的とした公共交通として位置づけられていることがこれからの公共交通の視点であると感じる。

・また、導入・運営にかかる費用について、初期費用、運行経費、システム費用、スポンサー収入が整理されており、地域事業者がスポンサーとして関わることで、公共交通を地域全体で支える仕組みが構築されている点は、試算する際の要素になるのではないか。

・一方で、定期定路線とデマンド型交通の併存は、利用が分散し双方の利用低下を招く可能性があることから、導入にあたっては交通手段の役割分担を明確にした上での検討が必要である。犬山市においても、幹線交通と生活圏交通の整理を含め、公共交通の在り方を中長期的視点で再検討すべきである。